三徳一誠

牧陵新聞

横浜市中区常盤町 3丁目24
横浜緑ケ丘高等学校同窓会
牧陵会　☎045-664-9020
ホームページ URL
bokuryoukai.com
メールアドレス
bokuryoukai@gmail.com
年会費等振込先（郵便振替）
口座番号 00250-7-69300

創立100年をむかえ、母校100周年事業を推進しましょう

100周年記念募金に多大なご協力をいただきありがとうございます

一般募金：8,005,752円、まなびや募金：6,413,000円、合計14,418,752円の募金をいただきました。
今後とも、ご協力を宜しくお願いします

牧陵会 ホームページ　リニューアルしました　https://bokuryoukai.com

3年ぶり 牧陵・緑のフェスティバル開催

詳細は、P3
11月18日

校門

チアリーディング

ダンスパフォーマンス

キッチンカー

サッカー部OB交流戦

体育館新築工事進捗

2014　中庭の巨木

2023　5月　解体後更地

2023　9月　基礎工事

2024　9月　竣工予定

CONTENTS

page

P2：会長挨拶、母校より
P3：第18回 青春かながわ校歌祭、
　　第22回 牧陵・緑のフェスティバル
P4：母校100周年 記念募金 経過報告
P5：追悼
P6：緑高情報
P7：部活動活動実績
P8：同期会だより
P9：クラブOB会だより
P10～11：校史資料
P12～13：100周年への記念メッセージ
P14～15：日日是好日
P16：事務局より

ご挨拶

牧陵会会長　池田 加津男（高21期）

昨年は母校が創立100周年を迎え、また、その記念ともなる体育館の建設が始められました。

これまでのコロナ禍による制限も解消され、世の中全体で、人と人の交流が復活し、様々な事業、イベントも復活してきました。牧陵会としても、第18回青春かながわ校歌祭への参加、第22回牧陵・緑のフェスティバルの開催など、100周年を祝う気持ちを込めて事業実施に取り組みました。また、8月に始めた記念募金へのご協力も進んでおり、ご協力に感謝いたします。

牧陵会の基盤となる同期会やグループの動きについては、延期となっていた同期会の復活開催も含めて、多くの同期会が開催され、それぞれの会に私も牧陵会長として出席させていただき、交流を図らせていただきました。何れの同期会も創立100周年がキーワードとなり、中には、会として100周年募金を行っている期も幾つかありました。また、同窓生で音楽や美術の活動をしているグループもコンサートや絵画展を開催し、告知のパンフレット等で「横浜緑ケ丘高校100周年協賛事業」と明記し、多くの来場者を迎えていました。

このように、令和5年は100周年に思いを寄せた年でしたが、令和6年は100周年の記念ともなる大規模体育館が完成し、そこを会場にして記念式典を開催するほか、記念の事業の実施の年となります。今年も100周年を祝う年として皆さんの気持ちが100周年事業に集まることを願っています。

100周年記念事業のため、生徒の保護者を構成員とする後援三徳会からは1,500万円を拠出いただいております。また、卒業生を主として母校への気持ちが、記念事業に発揮されるよう願って、5,000万円を目標に記念募金を行ってきております。

記念事業費は、母校の環境整備として、新体育館の冷房設備計画が現段階ではないことから、大型の冷風機の導入などを検討しており、その他教育環境整備の経費に加えて記念式典、記念誌の発刊等の記念事業に充てるものです。皆さんが「100周年をお祝いする」気持ちを発揮する機会として、積極的に募金に参加いただける事を願っております。

こうした中で、残念なこともありました、緑高の校長、或いは教師として、100周年事業にも関心を寄せていただき、時にはご助言もいただいていたお二方がお亡くなりになりました。お一人は校史資料室の展示と展示設備の整備、また高校7期の増川さんによる「学びの奨励基金」の制度化にご尽力いただき、創立90周年の時の校長でいらした故田中時義様であり、もう一方は評価の高い「横浜三中・三高・緑高六十年史」の編集など、数度の周年事業に関わり、29年間緑高にいらした音楽教師の故田頭喜久弥様です。お二方は100周年をとても楽しみにしていらっしゃいました。改めましてご冥福をお祈りするとともに、お二人の応援のお気持ちもいただいて、100周年記念事業が推進されることを願っております。

母校から

校長　秋山 晶子

新年のご挨拶を申し上げます。牧陵会の皆様には、ますますご清栄のことと存じます。いつも緑高に高い関心をお寄せいただき、また折々に多大なるご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

まず長らく進学重点校エントリー校であった緑高は、いよいよ神奈川県の進学重点校に指定される旨の発表がありました。湘南、横浜翠嵐、柏陽、厚木、川和に加え令和6年度から横浜緑ケ丘、多摩、小田原の3校が指定されます。8校で神奈川県の高等学校教育をリードし、次世代リーダーの育成に努めて参ります。

今年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、授業、部活動、ほとんどの行事が制約なく行われています。緑高祭は入場制限もなく、天候にも恵まれ、2日間で合計約8,000名の来校者を迎えることができました。教室、中庭ステージ、体育館で各クラス、部活動、有志の企画が発表されました。ただ、6月ではありましたが、猛暑の関係で、体育館で当日後夜祭ができず、後日に行うこととなりました。体育祭は10月末に、こちらも穏やかで暖かい晴天の下、復活した騎馬戦、飛びつき綱引き、借り物競争などに熱中しました。昼休み後の色別応援合戦は赤、青、黄の三色の演舞がどれも素晴らしく、何週間も前から昼休みなどに練習した成果が発揮されていました。クラス、部活動、色別の3つの対抗リレーは大歓声を受けて大いに盛り上がりました。緑高祭、体育祭ともに実行委員会がほぼ1年前から主体的に準備、企画、実行しています。

SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の取組は2年目に入り、1, 2年生が学校設定教科「緑の探究」を学んでいます。グループ探究で正解のない問いを自ら立て、先行論文を読み込んで、確かなデータに基づき検証して、発表する活動を行っています。夏に神戸で全国のSSH校が一堂に会した発表会において、ポスター発表を行いました。実際に自分の目で確かめ、専門家に直接教えを受けるスタディツアーも、釧路湿原、五色沼、福島、鳥取など全国に広がりを見せています。鳥取は「海・星・砂のスタディツアー@鳥取」と題し、同じSSH校の鳥取西高校と一緒に鳥取砂丘や山陰海岸、星空の観察を行い、横浜では決して見ることのできない、天の川が流れる満天の星空を満喫しました。中外製薬研究所や県立温泉地学研究所、外国の方への鎌倉案内などのミニツアーや科学セミナーも実施しており、充実した夏となりました。今後も積極的に外部へ研究発表を行い、科学的探究力を始め、発信力、協働力、国際性を育んでまいります。来年度以降も応援してくださる大学、企業、研究機関の方を募集しております。諸先輩方のお力をお貸しください。

末筆となりましたが、皆様のご健康とますますのご活躍をお祈り申し上げます。生徒の今後の活動にもご期待ください。

第18回 青春かながわ校歌祭

事業部会　中山 敏章（高22期）

台風やコロナのため中止や縮小が続いていた「青春かながわ校歌祭」が、10月18日に県立青少年センターで4年ぶりに従来規模の26団体が参加して開催されました。牧陵会は在校生のチアリーディング部員18名を含む約80名が参加し、学校行事で参加できない在校生吹奏楽部に代わり、今年の新卒業生が伴奏を演奏して三中校歌と緑ケ丘高校校歌を高らかに歌い上げました。そして、現役時代は応援団で活躍した高校15期伊藤順孝さんと高校21期向井信一さんのエールが会場内に響き渡りました。特に、数えで80歳の伊藤さんの背筋を伸ばして腹の底から湧き上がる発声は健在でした。

■ 校歌祭に参加して　チアリーディング部

校歌祭の出演をさせていただき、ありがとうございました。今年もRACYSに声をかけていただけて光栄です。牧陵会のOB,OGの方々や吹奏楽部の方々とお話しできて、交流できて嬉しかったです。吹奏楽部の演奏や牧陵会の方々との一体感を感じながら歌うことができました。

また、応援の迫力がありとても圧倒されました。部活内でも校歌を練習してみんなで舞台で歌うことで絆が深まったと思います。色々な学校の校歌を知るいい機会にもなりました。

これからも校歌や先輩方が築いてきたこの伝統を継承していきたいと感じました。来年以降もぜひ声をかけていただけるようにこれからの部活動も一生懸命取り組んでいきたいと思います。

3年ぶりの開催！　100周年プレイベント
第22回 牧陵・緑のフェスティバル

2023年11月18日（土）10:00～15:00

事業部会　中山 敏章（高22期）

緑高名物の強風の中、コロナによる3年の休みを経て実施されました。バドミントン部や剣道部などの卒業生と在校生の交流試合や、高校29期江上英樹氏の緑高セミナーと高校51期木村草太氏の講演会、卒業直後と還暦を迎えた吹奏楽部卒業生の世代別のアンサンブル、在校生はチアリーディング部の発表がありました。

規模が過去に比べ小さく、広報期間が不十分だったこともあり、来場者数は伸びませんでしたが、在校生と卒業生及び卒業生相互の交流活動が、学校の大きな協力により復活しました。運営にあたっては、新たに40期代の卒業生が企画実施に加わり、牧陵会の活動がより幅広い世代に浸透していくことを期待させるイベントとなりました。

チアリーディング部

バドミントン部　交流試合、現役40名の部員

剣道部　OB交流稽古

木村草太（高校51期）
講演会「緑ケ丘高校で考える自由と個人」

ブラバン　OBOG34期によるコンサート

校史資料室展示　同期会 機関誌

田中校長　遺作展示

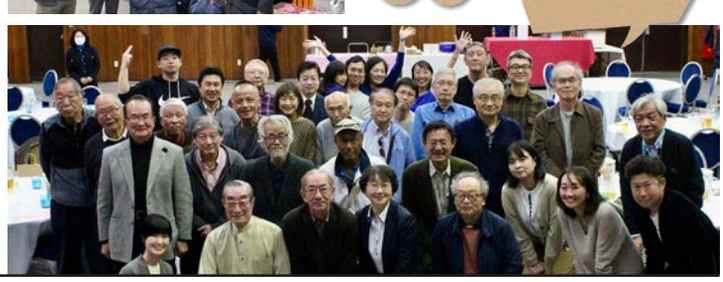
49期吹奏楽部のみなさん　タイムカプセル開封25年後

校内探訪　生徒会　現体育館、緑高食堂

キッチンカーも
初登場!
40期代で
推進しました。

YCACにて
全体懇親会

吹奏楽部　OBOGアンサンブル　69期～74期のみなさん



母校100周年　記念募金　経過報告

100周年記念募金の状況

皆様のご協力をいただきまして、2023年10月末迄に14,418,752円のご寄附をいただきました。

現在までに冷却送風機などの施設関係整備の計画や100周年記念誌の企画などが整いつつあります。

今回は再度「払込取扱票」を同封して、ご寄附をお忘れになってしまった方々向けにお送りいたしました。

目標達成に向け一層のご協力をいただけましたら幸いです。

横浜緑ケ丘高等学校100周年事業実行委員会

大正12年（1923年）に神奈川県立横浜第三中学校として創立され、横浜第三高等学校を経て、現在に至る横浜緑ケ丘高等学校は、令和5年（2023年）に創立100周年を迎えました。

令和6年（2024年）には新体育館が建設され、記念式典を行う予定です。

牧陵会、後援三徳会、学校の三者からなる横浜緑ケ丘高等学校100周年事業実行委員会では、新体育館の諸施設の整備、教育環境整備支援を主たる目的として記念募金の活動を実施することといたしました。

100周年記念募金　概算予算（案）　（単位：千円）

収入の部			支出の部		
学校募金	三徳会	15,000	記念式典	1,000	記念式典・アトラクション
募金	牧陵会	50,000	教育環境整備	35,000	新体育館他設備
	一般募金	(15,000)	設備備品		
	まなびや募金	(35,000)	記念誌	10,000	100周年記念誌
			記念イベント	4,000	祝賀会、演奏会、美術展
			冠・後援事業	1,000	学校行事での特別企画、学校外企画
			記録・広報	5,000	広報、記念品
			記念募金	5,000	募金関係事務費
			本部事務局	3,000	交通費、雑費
			予備費	1,000	
	収入計	65,000	支出計	65,000	

◆募金の概要

・募金目標は5, 000万円を目標としており、上記のような使途にて役立ててまいります。

・**一般募金**（記念誌や記念式典、諸行事を対象とする：税控除なし）と**まなびや募金**（神奈川県が行う基金で、緑高の教育環境整備を対象とする：税控除あり）の2種類の募金を行います。

どちらの募金も必要と考えており、それぞれの違いをご理解いただき、ご寄附いただければ幸いです。

◆募金の払込はゆうちょ銀行「払込取扱票」でお願いしています。

募金の払込には種別区分（一般募金とまなびや募金）のため、ゆうちょ銀行の「払込取扱票」での払込をお願いしております。会員の皆様にはお願い書をお送りしているところですが、お手元にないという方は牧陵会事務局にFAXまたはホームページ問合せ欄にてお申し出下さい。事務局より送付させていただきます。

※事務局は週2日（火・木）のみの開所となっておりますので、電話対応はご遠慮願います。

100周年記念募金の入金状況（期間：2023/6/1～2023/10/31）

2023/10/31迄　入金金額：1,035件　**14,418,752**円

【集計整理額】　卒業期別

卒業期	一般募金		まなびや募金		合計	
	件数	金額（円）	件数	金額（円）	件数	金額（円）
中学15	1	5,000	1	5,000	2	10,000
中学16	0	0	0	0	0	0
中学17	0	0	0	0	0	0
中学18	1	20,000	0	0	1	20,000
中学19	2	12,000	1	4,000	3	16,000
中学20	1	10,000	0	0	1	10,000
中学21	0	0	1	10,000	1	10,000
高校*1	4	28,000	0	0	4	28,000
高校*2	3	25,000	1	30,000	4	55,000
高校*3	7	52,000	2	35,000	9	87,000
高校*4	6	68,000	1	10,000	7	78,000
高校5	8	60,000	4	20,000	12	80,000
高校6	7	80,000	2	40,000	9	120,000
高校7	12	216,000	3	55,000	15	271,000
高校8	13	96,000	4	74,000	17	170,000
高校9	8	63,000	5	46,000	13	109,000
高校10	13	113,000	4	102,000	17	215,000
高校11	15	139,000	9	128,000	24	267,000
高校12	22	221,000	4	75,000	26	296,000
高校13	23	185,000	13	227,000	36	412,000
高校14	17	168,000	2	60,000	19	228,000
高校15	26	369,000	8	195,000	34	564,000
高校16	10	90,000	6	90,000	16	180,000
高校17	16	253,000	11	273,000	27	526,000
高校18	40	499,000	18	330,000	58	829,000
高校19	27	346,000	8	205,000	35	551,000
高校20	24	193,000	18	205,000	42	398,000
高校21	30	485,000	9	152,000	39	637,000
高校22	18	143,000	17	257,000	35	400,000
高校23	8	75,000	9	185,000	17	260,000
高校24	26	261,000	11	170,000	37	431,000
高校25	15	102,000	9	67,000	24	169,000
高校26	13	133,000	9	78,000	22	211,000
高校27	17	1,243,000	14	240,000	31	1,483,000
高校28	13	131,000	8	220,000	21	351,000
高校29	21	169,000	19	269,000	40	438,000
高校30	14	110,000	7	120,000	21	230,000
高校31	12	140,000	10	415,000	22	555,000
高校32	11	97,000	6	98,000	17	195,000
高校33	7	55,000	12	140,000	19	195,000
高校34	7	57,000	9	105,000	16	162,000
高校35	11	92,000	8	190,000	19	282,000
高校36	9	65,000	8	112,000	17	177,000
高校37	9	80,000	4	60,000	13	140,000
高校38	8	88,000	8	143,000	16	231,000
高校39	7	73,000	6	83,000	13	156,000
高校40	1	1,000	0	0	1	1,000
高校41	4	130,000	2	60,000	6	190,000
高校42	6	42,000	6	101,000	12	143,000
高校43	4	128,000	7	85,000	11	213,000
高校44	4	35,000	3	50,000	7	85,000
高校45	3	20,000	2	60,000	5	80,000
高校46	4	60,000	5	105,000	9	165,000
高校47	1	10,000	1	15,000	2	25,000
高校48	2	20,000	1	20,000	3	40,000
高校49	1	10,000	0	0	1	10,000
高校50	0	0	1	18,000	1	18,000
高校51	2	20,000	1	10,000	3	30,000
高校52	0	5,000	2	103,000	2	108,000
高校53	0	10,000	2	30,000	2	40,000
高校54	1	10,000	0	0	1	10,000
高校55	1	5,000	3	30,000	4	35,000
高校56	0	0	0	0	0	0
高校57	1	5,000	0	0	1	5,000
高校58	0	0	1	10,000	1	10,000
高校59	3	50,000	1	10,000	4	60,000
高校60	1	5,000	0	0	1	5,000
高校61	2	4,000	0	0	2	4,000
高校62	3	25,000	2	20,000	5	45,000
高校63	3	21,000	1	20,000	4	41,000
高校64	2	40,000	2	20,000	4	60,000
高校65	2	12,000	0	0	2	12,000
高校66	1	5,000	0	0	1	5,000
高校67	0	3,000	2	15,000	2	18,000
高校68	2	13,000	2	11,000	4	24,000
高校69	5	42,000	1	10,000	6	52,000
高校70	1	2,000	2	30,000	3	32,000
高校71	2	7,000	1	5,000	3	12,000
高校72	3	31,000	2	41,000	5	72,000
高校73	3	12,000	2	20,000	5	32,000
高校74	1	6,000	1	1,000	2	7,000
高校75	1	10,000	2	50,000	3	60,000
卒業生計	632	7,709,000	367	6,273,000	999	13,982,000
在校生	18	159,000	13	140,000	31	299,000
その他	5	137,752	0	0	5	137,752
合計	一般募金		まなびや募金		合計	
	件数	金額（円）	件数	金額（円）	件数	金額（円）
	655	8,005,752	380	6,413,000	1,035	14,418,752

横浜緑ケ丘高校の元校長田中時義様追悼

牧陵会会長　池田 加津男（高21期）

横浜緑ケ丘高校の元校長田中時義様が去る7月15日、道志村でのボランティア活動中に運転しているショベルカーが横転し挟まれてお亡くなりになりました。葬儀は近親の方により執り行われました。ご冥福をお祈りします。

緑高の創立90周年事業にご尽力され、特に校史資料室の整備には、設備、資料展示共にお力を注がれ、大きな成果を上げられました。学校の歴史の9つの場面を演劇とした脚本を制作し、90周年記念の集いにおいて、生徒が一部を朗読劇として上演しました。

また、増川重彦様から奨学金を拠出いただくにあたり。増川様のご意向を踏まえ、経済的理由によるのでなく、主体的な学びの計画に基づく実践活動の奨励として制度を検討され、生徒の活発な応募を受け、独創的な制度として評価をいただき、9年目になります。

夏に開催の野球、サッカーの試合の応援に出かけられ、牧陵会のスポーツ応援隊とともに応援の機会も多く、更に退任後も、在職時の生徒が卒業した同期会からの出席要請に応えられ、牧陵会長とともに出席する機会が何度かありました。

創立90周年事業の後、創立100周年に繋げるよう、学校、後援三徳会、及び牧陵会の三者による委員会の継続を図り、それを基に現在の100周年事業委員会が設置されています。

最近も何かと相談に応じていただいているところでした。

校史資料室の設備の制作のほか才能豊かな方でもありました。退職後も牧陵会の緑樹会に出展いただき、先の4月にも絵画を数点出展されていました。

ここ数年は創作活動などで道志村に居住されており、今回のボランティア活動もその中の一つであったと推察します。

以上、牧陵会とのつながりの中で田中様の才能、ご尽力について申し上げましたが、勿論、本来の教育、そして校長という管理職においても傑出した活動をされていたところであります。不幸な事故に遇われましたが、多くの場面でいかんなく才能と力を発揮されたことと思います。改めましてご冥福をお祈りします。

横浜緑ケ丘高校 田中時義先生 追悼の辞

牧陵会参与　石井 清（高12期）

令和5年7月15日、道志村でのボランティア活動中に運転していたショベルカーが横転し挟まれてお亡くなりになったとの訃報に接し大変驚きました。ちょっとしたミスが命取りになった事と思います。

緑高の90周年事業にご尽力され、「未来を創る　未来に生きる　未来を拓く」をキャッチフレイズとし、広い視野をもち新たな価値を創造する次世代のリーダー育成を目標に掲げられ、現在次世代を担うリーダーの卵たちが遺訓となった目標に向かって頑張っております。

特に牧陵校史資料室の整備にあたっては、牧陵会の資料室整備担当者と検討を重ね夏休みを利用し田中校長と私で約2か月の期間で工具準備、資材購入・搬入、本棚・陳列台等の作成、設置を実施しましたが、驚いたのはそのプロ並みの技の冴えでした。隠れた才能の一端を見せていただきました。校長室にも遺品となりましたが制作物があります。それと玄関脇に掲げられている「校名板」は同時期に田中校長の揮毫で作成しました。緑樹会にも絵画を出展されておりました。教育者、そして校長という管理職においても傑出した活動をされており、多方面で才能豊かな逸材でした。

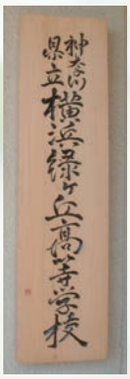
100周年でお会いする事を楽しみにしておりましたが叶わず大変残念です。

田中先生のご冥福をお祈りし追悼の辞といたします。

合掌

緑高西館の玄関に表札

（平成29年5月）



校舎玄関に高校名を掲げたいとの田中校長（当時）の希望で、揮毫を田中先生に、製作を木彫の植草近衛さん（高校15期）にお願いし、玄関横に掲げられました。

田頭先生を偲んで

市原 義国（高18期）

田頭先生が緑高に赴任されたのは、私が2年生になった1964年で、東京オリンピックが開催された年でした。それまで長年音楽の先生だった故鈴木辰枝先生が翠嵐高校に転任されその代わりに移ってこられました。当時、緑高では、合唱部もブラスバンド部も盛んに活動していて、部員は共に40人ほどでした。当時は、両部とも指揮者は生徒で練習もほとんど生徒だけでやっていました。ただ演奏会も近づいて曲が仕上がってくると、田頭先生にはアドバイスを頂いたり、指揮をしてもらうことがありました。先生の指揮は、空中金魚（前任校でつけられたあだなに納得）さながらに全身を使って宙に舞うものでした。当時の音楽室は充実していて、個人練習用のピアノ付き個室が2つもあり、先生がおられる奥の準備室も広々として、昼休みや放課後は常に生徒たちのたまり場になっていました。

先生はピアノはもちろんですが、特に作曲や編曲に関しては素晴らしい才能をお持ちで、私が3年生の時作曲した（放課後準備室で作った）函館という曲を男声四部に編曲してくださり、その後歌い続けてきました。

また、先生は1990年代になって定年を迎えられた後、堰を切ったように作曲を続け、特に合唱曲集を立て続けに出版され、音楽史にその名を刻まれました。

時々母校を訪れた時、今は壊されましたが、北館の音楽室あたりを眺めては当時を懐かしんでおります。

高校18期アルバムより　合唱部

緑高情報

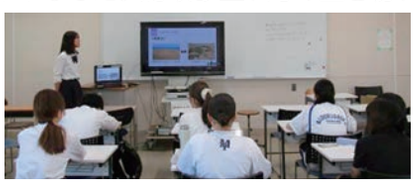
SSH（スーパーサイエンスハイスクール）としての取り組み

SSH指定2年目となり、2年生の学校設定科目「緑の探究Ⅱ」が新たに始まりました。スタディツアーも広がりを見せています。一方、探究活動の指導方法についての研修が充分と言えないこと、知の情報拠点としての図書室の整備がまだ途上であることも感じています。

◆ 令和5年7月　緑のスタディツアー「鳥取海・星・砂のスタディツアー」

SSH指定校である鳥取西高等学校との共催で行われました。山陰の自然、鳥取砂丘、日本海を題材に、さじアストロパークでの天体観測を含め、盛りだくさんのメニューだったようです。

そして9月の放課後、まとめの発表会が鳥取西高等学校とオンラインをつないで行われました。鳥取砂丘、海の生き物、鳥取ジオパーク、星、乾燥地など、両校の生徒でグループを作り、テーマごとに協力して発表を行いました。



◆ 令和5年8月　SSH生徒研究発表会

8月9日㈬～10日㈭神戸で行われた、令和5年度スーパーサイエンスハイスクール指定校が一堂に会す生徒研究発表会に、生徒4名、引率教員2名が参加しました。本校からは個人探究で進めてきた海浜植物ハマボウフウに関する研究を化学生物部の班活動に広げ、ポスター発表しました。学校として2回目の参加となる今回は、生徒が自分たちの研究に真摯に向き合うことに加えて、他校見学の際には積極的に話し掛け、刺激され、研究に対する新たな気づきを得る機会となりました。

◆ 令和5年8月　緑のスタディツアー「五色沼スタディツアー」

SSH緑のスタディツアーとして、福島県にある五色沼を中心とした湖沼群と鍾乳洞の探究を行いました。引率教員からの報告です。

環境省の許可を得て、パークボランティアに同行していただき、五色沼10カ所で採水と観察を行いました。五色沼湖沼群は大変複雑な形成により沼毎に微妙に色が違いました。

入水鍾乳洞ではヘッドライトを身につけ、冷たい流水中をザブザブと進み、垂れ下がる鍾乳石をよけ、かがんでひよこのように歩くなど、今までにない体験となりました。

生徒には初めてのことが多く、藪の中に入り、石に挟まれたごく狭い場所を蟹歩きで進むなど困難もありましたが、くじけることなく果敢にチャレンジし、最後まで楽しんで探究していました。

令和5年度 第1回緑高セミナー

10月11日㈬放課後に令和5年度第1回の緑高セミナーが開かれました。

今回は「先端技術で地域と世界に貢献する」としてロボットやAI、半導体、EdTechといった技術が私たちの生活にどのように関わり、未来をつくっていくのか、人間はそれらの先端技術とどう共存していくのかについて、27期生の石原昇さんに講義していただきました。石原さんは情報経営イノベーション専門職大学客員教授であり、早稲田大学総合研究機構の招聘研究員でもあります。また、シンクタンク研究員や証券アナリストとしての経歴もお持ちで、世界を視野にわかりやすくお話されました。

その一方で高校時代は学食をこよなく愛し、地域の周辺の様子も紹介されるなど、緑高や横浜を大切に思う気持ちが伝わってきました。高校生に向けては、高校時代にしかできない、交友関係をしっかり作ることをアドバイスされていました。

謝辞を1年B組の出口さんが「今日のお話でAIの進歩がとても速いことがわかった、もっと学ばなくてはならない、特に人間性をしっかり磨きたい」と述べて締めくくりました。

令和5年度 第2回緑高セミナー

片倉 正一（高23期）

この「牧陵・緑のフェスティバル」の日に、今年度2回目の緑高セミナーが開かれました。

「漫画と共に終わらぬ部活動を生きていく」というテーマで、元小学館雑誌編集者の江上英樹さん（高29期）がとても楽しい雰囲気作りをしつつ、お話してくださいました。特に漫画家と編集者の関係という普通にはあまり知られない秘話の領域の話を、実際に担当された漫画の例をもとにしてくださり、大変興味を誘いました。編集者の苦労が偲ばれました。

しかし今はその激務から離れたものの、まだ漫画の可能性を開拓していること、そしてもう一つ、趣味の鉄道の経験と知識を生かして、スイッチバックに関する本を出版予定であることをお話されました。最後に鉄道関係、AI関係の質問があり、今後の漫画の行方について思うことを話され、生徒の謝辞で終了しました。

令和5年度　部活動活動実績

部活動報告（ホームページより）

棋道部2年連続全国大会へ

令和5年度神奈川県高等学校総合文化祭 将棋部門において本校棋道部2年髙橋千穂子さんが女子個人戦で第2位となり、8月に行われた第47回全国高等学校総合文化祭鹿児島大会に神奈川県代表として出場しました。昨年に引き続き全国大会への出場、おめでとうございます。

高校野球神奈川大会開会式

7月7日㈮横浜スタジアムで第105回全国高校野球選手権記念大会神奈川大会の開会式が行われました。今年は4年ぶりに全参加校選手の入場行進が行われ、本校の硬式野球部員も元気に行進しました。

7月10日㈪横浜スタジアムにて神奈川野球大会2回戦が行われ、横浜緑ケ丘高校が10対7にて茅ヶ崎北陵高校に快勝しました。3回戦は県相模原に敗退しました。

吹奏楽部東関東大会へ

8月11日㈮神奈川県民ホールで第72回神奈川県吹奏楽コンクールが行われました。本校の吹奏楽部は15番目に課題曲Ⅰと自由曲のバーンズ作曲「祈りとトッカータ」を演奏し、金賞を受賞しました。指揮者の山口先生によると、生徒は焦ることなく落ち着いて演奏し、練習で得たことを存分に発揮できていたとのことです。

そして県立高校唯一の神奈川県代表として9月2日㈯に水戸市民会館にて東関東吹奏楽コンクールに出場しましたが、残念ながら銅賞に終わりました。

管弦楽部定期演奏会

7月23日㈰真夏の太陽がようやく西に傾き始めた夕方、管弦楽部の第37回定期演奏会が県立音楽堂で開催されました。

「くるみ割り人形」から花のワルツ、シューベルトの「軍隊行進曲　第1番」など、耳なじみのある曲が次々と演奏されました。しかし何といっても圧巻は第3部のドヴォルザーク「交響曲第9番　新世界より」でした。40分以上かかる全曲を高校生が指揮も含めて自分たちで作り上げる気迫と集中力、時に無謀かと思うほどに疾走する若いエネルギーをしっかりと感じることができました。

ダンス部

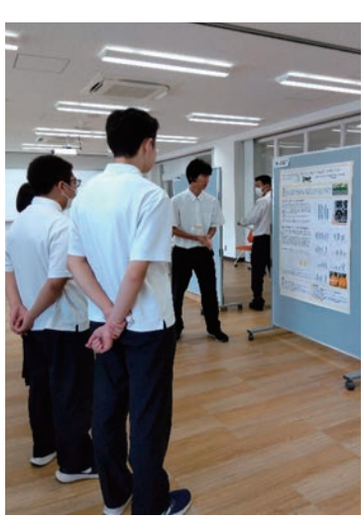
9月9日㈯ダンス部が都筑区で開催されたODORI MUSIC FESTIVALに参加し、準優勝に選ばれました。別ステージで一般の観客の方々を前にして発表する機会があり、よく揃った振り付けを披露していました。

化学生物部

日本土壌肥料学会で化学生物部がポスター発表しました。

9月12日㈫愛媛大学において日本土壌肥料学会2023年度愛媛大会が行われました。

本校の化学生物部員が「肥料の割合がどのようにミニカボチャの成長に影響するか～家庭でできる工夫～」というテーマでポスター発表を行いました。



同期会だより

■ 緑ケ丘高校15期会・ファイナル　開催報告

林田 政義（高15期）

2023年9月23日（土・祭）17:00より中華街大珍楼にて45名+池田会長出席にて挙行致しました。

本主旨は2022年7月1日逝去の荒木郁雄氏の25年に亘る事務局担当への感謝を込め、数え80才の区切りとすべく開催です。

始めに物故者60人を読み上げ、そして1分間の黙祷し、開会です。

永石会長あいさつ、引き続き池田牧陵会会長あいさつ、乾盃、会食スタートです。

今回はファイナルの為、全員で1分間スピーチとし（過去、現在、未来）をテーマに語って頂き、にぎやかに過ごし、ラストはディブ平尾（平尾時宗）君の“長い髪の少女”を永石リードのもと全員で唄い、更にハリキリハッチャン（伊藤順孝）のエールでメめました。

卒業以来60年…毎年のこと、想い出を語る機会を重ねてまいりましたが、今般をもって、全大会を終了いたします。

なお当日の集合写真は毎度の大河原雅彦氏の撮影・制作に感謝です。

■ 高17期（馴鹿会（トナカイ））同期会「卒業58年・喜寿記念会」を開きました。

小島 和子（高17期）

高17期（馴鹿会/トナカイ）卒業10年後より始めた同期会「卒業58年・喜寿記念会」を10月11日㈬マリンタワー 4F「ザ・テラス・ヨコハマ」に於て開きました。出席者58名。

計画していた2019年の会をコロナ禍により中止した事も有り、久し振りに会う同期生の顔・姿の変化に誰か判らなかったり、名札を見ながら判断する等、互いに大笑いする場面も見られました。楽しいひと時に、心残りを感じながら散会いたしました。

どの顔も笑顔、笑顔の記念写真をご覧ください。

■ 高校24期同期会

黒崎 一夫（高24期）

令和5年10月8日（日）、高校24期同期会を横浜駅東口の「パセラ横浜 7階 グレーバリ横浜グランデ（BENOA）」で開催しました。同日はお天気もよく過ごしやすい日でした、93名の参加と恩師1名及び牧陵会の池田会長にご出席を頂き開催いたしました。

会は寺田（B組）、木目田（C組）の司会で始まり、全員の写真撮影の後、池田会長の挨拶を頂いた後、石渡先生（出席予定でした佐久間先生は当日ご都合のため欠席されました）から挨拶を頂きました。卒業から52年近く経った年月を感じさせない先生のお元気な姿でした。

乾杯を待ちかねたように賑やかな話声が響きました。

前回の同期会から4年、集まった同期仲間は皆元気で、あちらこちらで昔の話に花が咲きました。古稀を迎え見かけは変わったメンバーもおり年はとりましたが、はつらつとし、本当に懐かしく楽しい時間を過ごしました。

時間はあっという間に過ぎ中締めの時間となりましたが、多数のメンバーが2次会に参加いたしました。（3次会に繰り出した人もいたようです）。

なお、次回の同期会は、2025年（2年後）または2026年（3年後）の10月か11月に開催の予定（場所は未定）です。次回の幹事長は浅野弘（E組）、会計は大田達実（A組）です。よろしくお願いいたします。

今回参加された先生、池田会長そして同期の方々ありがとうございました、残念ながら参加されなかった方々、次回のご参加をお待ちしております。（写真撮影　水谷　淳）

■ 高校29期同期会開催

高校29期同期会幹事　袴田　章（高29期）

ラグビーワールドカップの決勝戦を翌朝にひかえた2023年10月28日、5年毎に開催している高校29期同期会がロイヤルホールヨコハマにて盛大に催されました。恩師4名（伊藤先生、宮城先生、滝口先生、尾形先生）にご出席いただき同期生127名が一堂に会しました。

さすがに65歳ともなると昔の精悍な面影が全く感じられない方、ますます光り輝いている方（頭ではありません）、素敵な年の重ね方をされている方、個性的な服装で現れる方、などいらっしゃいましたが、話題は一瞬にして高校時代にタイムスリップ、思い出話は尽きることなく時は流れました。江戸清の高橋夫妻から恩師へブタまんを贈呈して一次会は幕を閉じました。

その勢いで二次会へは70名が流れ込み、PRコーナーでは、11月18日開催の緑のフェスティバルの緑高セミナーで「漫画と共に終わらぬ部活動を生き抜く」というテーマで講演する江上英樹さんが登壇してPRするなど更に密度の濃い話で盛り上がりました。

最後は緑高校歌斉唱で締める予定でしたが急遽校歌に続いてもう一曲、谷村新司のスバルを歌うことになり、参加者全員が肩を組んで輪になりスバルを熱唱してお開きになりました。

あらためて、この場をお借りしてお忙しい中ご出席いただいた先生方と同期126名にお礼を申し上げます。また、横浜緑ヶ丘高等学校100周年記念募金に集まった総額62,752円は100周年委員会に高校29期有志一同の名で寄付させていただきます。

■ 高校42期 同期会

高田 浩司（高42期）

10月14日、HOTEL THE KNOT YOKOHAMAにて、1990年3月卒業42期の同窓会を開催しました。参加者は195名! 牧陵会の池田会長にもご参加頂きました。遠路はるばる、京都など国内はもちろん、香港から帰国してくれた方も。50歳を過ぎ、卒業後30数年振りに出会う面々。顔と名前が一致せず、戸惑いと感激が入り混じる不思議な感覚。その後は懐かしさから話が弾み、司会者が声を張り上げる程の混沌状況へ。クラス別の写真撮影、事前に撮影した今の緑高と当時の写真の上映を経て、最後は元応援指導部によるエールで中締めとなりました。会いたい人と触れ合うことができた奇跡に、幹事の皆様・42期の皆様に感謝!

クラブOB会だより

■ 100周年によせて

牧陵野球クラブ（横浜緑ケ丘高校野球部OBOG会）
岡　邦宏（高15期）

創立100周年誠におめでとうございます。

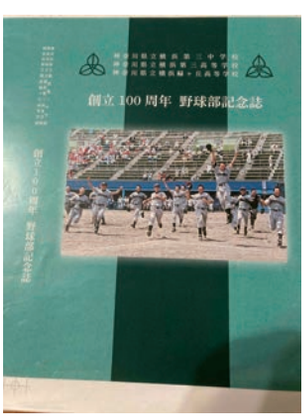
これを機にOBOG 会は部誌（記念誌）を作成しました。色々な資料を収集し、検討する中で様々な事を再確認、また歴史を勉強しました。

大正14年に創部し、昭和2年には神奈川大会に参戦し野球部がスタートしました。当初は結果が出なかったようですが、次第に力をつけ昭和7年第18回、昭和8年第19回大会には準優勝しました。その後は世界大戦に突入し、グランドでは軍事教練、一部の生徒は工場に勤労奉仕し、好きな野球が出来ず戦争一色となったようです。当時の写真を観るとゲートルを巻いた集合写真等も確認、感慨深いものでした。

そして戦後まもなく昭和21年野球部は復帰し第28回大会で横浜商（Y校）に決勝で負け準優勝するが、2校出場できる南関東大会には食糧事情が悪いという理由で三中は出場できなかったのです。この無念さは想像を絶するものと思われます。

当時は物資も乏しく、駐留軍から野球道具を払い下げられたとも聞いております。その後も予算は少なく糸の切れたボールを補修し、また折れたバットは釘を打ち素振り用に使用していました。

その後は高度成長と共に、OB会も発足し、現役には支援が行われてきました。戦後、昭和36年第43回大会はベスト4、昭和39年第46回大会はベスト8、平成1年第71回大会はベスト16、その後も緑高らしい躍進がありました。



創立100周年　野球部記念誌

しかしこれからの100年、少子化の為野球人口が減少傾向にあり、部員不足も心配されますが、緑高が文武両道で魅力のある学校であればその心配も解消されると思われます。OBOG会が少しでも部活の一助になれればと思っています。

最強の野球部　平和球場　昭和21年8月20日（1946）

■ バドミントン部生い立ち日記

OB会 会長　棚橋 勝美（高15期）

この度は創立100周年おめでとうございます。

バドミントン部OB会一同よりお祝い申し上げます。大正、昭和、平成、令和と激動の時代を一世紀にもわたり歴史を刻んできた本校に在籍できたことを光栄に思います。

当時横浜第三中学校という名称だった今から75年前の昭和22年（1947年）、OB会初代会長の藤井守一氏（高2期）らによって同好会として発足。翌年、学制の改変により学校名は県立横浜第三高校と改称。同好会からバドミントン部として発足し、日本で最初の高校バドミントン部ではないかと言われております。

敗戦後まもない物資不足の中、高価なシャトルを糸や接着剤で修復しながら再利用したり、電力不足で停電がたびたびあり、ロウソクを灯して練習したりと苦労は多かったようです。

長い歴史をもつ我が部では、全日本教職員大会10連覇の輝かしい戦績を持ち、日本代表として世界大会でも活躍した前OB会会長の故・杉田博氏（高2期）や、全日本選手権を5連覇含む8回制覇した小島一平氏（高15期）、スカッシュに転向し日本チャンピオンとなり世界で活躍したスカッシュの神様こと坂本聖二氏（高17期）など多くの名選手を輩出しております。

OB会は平成16年（2004年）に故・佐藤次之氏（高11期）を中心に発足いたしました。以後20年近くに渡って現役生を支援。シャトルや部応援旗の寄贈や、フェスティバルでの交流戦を実施しております。

コロナ禍でしばらく休止していた交流戦も本年はホームカミングデーに実施を予定しております。引き続きOB会として現役生を支援していきたいと思います。

■ 卓球部OB会から100周年に寄せて

鈴木　繁（高23期）

プロフィール
中学・高校・大学と卓球部に所属
戦型はシェークの守備型カットマン
卓球部OB会長を2017年より歴任

緑高100周年の歴史と共に歩んできた、卓球部の歴史についてご紹介します。

卓球部OB会名簿を見ると、高2期から高75期の74学年、400名を超える部員名が記されています。これに現役生を加えると、卓球部は77年間にわたり地道に活動を継続してきたことになります。

卓球部OB会は、昭和40年代初期に荻原初代会長（高2期）を中心に結成。結成当時はベビーブーマー世代が大学生であり、卓球部練習にも熱心に顔を出していただき、合宿では現役1名にOB2名がついて指導するような状況もしばしばありました。そのような伝統の下、現在まで脈々と繋がっています。その一つの原動力が下村杯です。

下村杯は、毎年夏季にOBと現役生が一堂に会し、卓球を通じて交流を深める一大イベントです。名称は発足時の卓球部顧問下村先生の名に由来。2023年度の下村杯は、3年間のコロナ中断を経て、2023年8月5日に無事に再開実施することができました。今回の再開により、フレッシュで活力に満ちた現役生とも交流でき、卓球部の伝統が将来に向けて継続できると確信することができました。

現在は、OB会結成から56年を経過。過去には、結成20周年、30周年、40周年、50周年の記念式典をいずれも元町クリフサイドにて（卓球部OBであるクリフサイド社長の野坂欣也氏（高10期）の協力を得て）実施してきました。

今後は、コロナ前と同様の活動ができる状態に早く戻り、次の60周年記念が無事に開催できるよう、関係者で尽力をしていく所存です。

校史資料

思い出の先生方

片倉 正一（高23期）

卒業した後、再び母校を訪れる、それも何かの手続きなどで行かざるを得ない場合でなく、自発的に懐かしいなあ、と訪れたという経験を持つ方はどのくらいおられるでしょうか。一度統計をとってみたいものですが、仮に訪れたとして、それは多くの場合、懐かしい先生にお会いするという場合が多いと思います。かつてはかなり長く同一校に勤務できましたので、卒業後何十年たっても職員室に行ったらまだおられた、ということが普通にありました。

しかし、今はそれは無理な願いとなりました。その話の前に、緑高の場合、長期に勤務された先生がどのくらいおられたかを紹介したいと思います。30年以上と20年以上とに分けて挙げていきましょう。

なお勤務期間は全てが「4月に着任・3月に離任」というケースばかりでなく、年度途中もありますが、それらは無視して単純化してあります。また司書・業務・技能員などの教員でない方も同じ職場ということで記載してあります。順番は着任順としました。

30年以上勤続の先生方

先生氏名	卒業期	在任期間	在職年数	科目
根本八五郎		大正13年～昭和34年	35年間	地理
亀井弥三郎		大正13年～昭和34年	35年間	歴史
越次　政一		昭和8年～昭和39年	31年間	国語
川口　永義		昭和13年～昭和47年	34年間	業務
時枝　　明		昭和16年～昭和47年	31年間	歴史
村山徳太郎	中8期	昭和21年～昭和57年	36年間	地理
島田　慈周	中2期	昭和21年～昭和59年	38年間	英語
小泉　竹一		昭和23年～昭和57年	34年間	倫社
吉田　　晶		昭和23年～昭和57年	34年間	生物
大川　洋子		昭和37年～平成4年	30年間	司書
佐久間宏子		昭和40年～平成8年	31年間	国語

20年以上勤続の先生方

先生氏名	卒業期	在任期間	在職年数	科目
相沢　平佶		大正13年～昭和21年	23年間	国語
岡田正太郎		大正13年～昭和21年	23年間	国語
三浦徳太郎		昭和15年～昭和40年	25年間	教頭
神里兵五郎		昭和16年～昭和43年	27年間	数学
青木安治郎		昭和16年～昭和45年	29年間	工芸
飯島　和一		昭和17年～昭和40年	23年間	化学
中山　竹次		昭和18年～昭和39年	21年間	英語
岩部　律郎		昭和18年～昭和40年	22年間	数学
小柳勝太郎		昭和19年～昭和41年	22年間	社会
樽井　富雄		昭和19年～昭和43年	24年間	体育
浅井　祐俊		昭和19年～昭和48年	29年間	国語
鶴見　照雄		昭和20年～昭和46年	26年間	国語
下村　英二	中10期	昭和20年～昭和47年	27年間	数学
藤田　婦具		昭和25年～昭和48年	23年間	家庭
小泉　万寿		昭和25年～昭和51年	26年間	地理
倉橋　みつ		昭和34年～昭和55年	21年間	業務
瀬下　岩朗		昭和38年～平成4年	29年間	体育
田頭喜久弥		昭和39年～平成4年	28年間	音楽
石井　寿雄		昭和40年～昭和62年	22年間	数学
宮鍋藤太郎		昭和40年～平成1年	24年間	数学
高津　昭三		昭和40年～平成3年	26年間	理科
伊藤　　明		昭和41年～昭和62年	21年間	政経
岡村　正義		昭和43年～平成3年	23年間	体育
安室登美子		昭和44年～平成3年	22年間	理科助手
小山　邦夫		昭和48年～平成4年	23年間	国語
河西　忠雄		昭和51年～平成10年	22年間	美術
石田　憲臣		昭和52年～平成12年	23年間	技能員
種井　節子		昭和55年～平成13年	20年間	技能員

どうでしたか。懐かしい名前を見つけられたと思います。私も直接教わった先生がたくさんいましたし、教員になった後もいろいろお世話になった先生がおります。

しかし、残念ながら今は30年どころか、20年以上勤続という先生は絶対現れません。勤続年数が制限されるようになったのは昭和63年からで、この時は同一校15年までと決められました。さらに平成9年には12年までとなり、平成21年には10年までとなったのです。細かいことをいうと、新採用は初任校5年までとなっています。

じゃあどうしてそんなことになったか、というと話が長くなりますが、かいつまんで言いますと人事異動の公正化のためと言えます。

写真は、昭和35年（1960年）と昭和46年（1971年）の教職員。35年の37名の教職員のうち退職されるまで30年以上「勤続」された先生は6名、20年以上は13名。

46年の写真にも「20年以上勤続された」13名の先生方の懐かしい顔が見られます。

昭和35（1960）年 教職員

昭和46（1971）年 教職員

緑高周年誌の紹介

各高校は、節目節目に校史と資料を集めた周年記念誌を発行しています。基本的には10年ごとの発行が多いようですが、その頻度は学校により様々で、毎10年ごとにきちんと出しているところはあまりないようで、途中省かれることも多いようです。ちなみに我が緑高の場合は、30年史からはきちんと10年毎に発行されていますので、今回はその概要をお伝えしたいと思います。

ちょうど牧陵新聞第4号（平成5年12月1日発行）に、三〇年史から七〇年史までの簡単な紹介がありますので、ここから少し補足しつつ引用し、続く八〇年史と九〇年史については、私の方で付け加えてあります。

30年史

創立30周年記念号は「牧陵」第7号の特集として昭和29年3月1日に発行された。はじめに創立30周年記念式典の式辞（宮田直次郎校長）のほか当時の県知事内山岩太郎氏他5名の祝辞が掲載され、諸先生（亀井弥三郎、阿部正昭、鶴見照雄、高橋幸三、小柳勝太郎先生）のほか在校生の詩、創作、戯曲、牧陵賞第3回当選作品として西海洋君の「遠き潮騒」（短歌連作）が採り上げられた。さらに創立30周年記念行事の一環として行われた講演会（国会図書館長金森徳次郎氏＝道徳から見た憲法）の大要がまとめられている。

40年史

創立40周年記念特別号は「牧陵」第17号（昭和38年11月1日発行）がこれにあてられた。はじめに当時の後援三徳会理事長野村洋三氏他7名の祝辞、二宮龍雄校長の〔創立40周年を迎えて〕の挨拶文の他、初代校長藤村与六氏の〔校章の憶出〕および教職員、卒業生による思い出の文章が17名から寄せられた。そしてこの40周年に記念事業で、①図書館の建設、②水泳プールの建設という大事業についての概要が説明されているが、このうち図書館は県への寄付が不用となったことから各運動部の部室建設に変更された経緯が書かれている。

50年史

創立50周年記念号はやはり「牧陵」の第23号（昭和49年3月1日発行）がこれにあてられている。この号は当時の県知事津田文吾氏他4氏の祝辞と中村隆市校長の〔創立50周年を迎えて〕の挨拶文の他、緑高小史、おもいで（教職員、同窓生15氏）、高校生の生き方 ―その悩みと希望―（卒業生6名、在校生10名の文章が掲載されている。さらに50周年記念事業について、新体育館建設についての記事があり、地元との調整による設計変更、鋼材不足による工期の延期などで半年完成が遅れた事情が記されている。

60年史

横浜三中・三高・緑高六十年史（昭和58年11月5日発行）はこれまでの雑誌「牧陵」による記念誌と異なり約560頁の書籍として発刊された。「創立60周年の記念事業の一環として本校初の修史事業をなすにあたり読みごたえのある校史の編纂を志し」（編集後記）とあるようにこれまで、略史、小史としてのみまとめられていた校史を本格的に正史としてまとめられたものである。

後援三徳会理事長松村千賀雄氏、牧陵会会長高橋幸三氏、坂本孝友校長の祝辞･挨拶文のあと

一、横浜三中草創の時代
二、昭和初期の時代
三、戦時下の横浜三中
四、校舎も校庭も消えた敗戦の時代
五、新制高校発足の時代
六、昭和三十年代の緑高
七、学園紛争の時代
八、安定の中の緑高
九、緑高の現状と展望

という九章にわたる校史の他、巻末に13頁にわたり、〔六十年史略年表〕を加えている。第九章の最後に〔戦後の牧陵会と三徳会〕をまとめて掲載してある。

70年史

平成5年10月16日の記念式典に合わせて、大正12年から平成5年までの「横浜三中・三高・緑高七〇年の歩み」と題された七〇年史が発刊された。写真を主体にした記念誌にしたいという編集委員の希望があり、早くからまず写真の収集から始められた。とりわけ昭和20年以前の戦前の写真について、母校が昭和20年5月29日の横浜大空襲により全焼したため資料がないことから牧陵会にも協力が求められた。結果としてはかなりの数の写真が集まったものの全部は収録できないので、全てマイクロフィルムに収めて保管する処置をとった。

後援三徳会理事長の松村千賀雄氏、牧陵会会長の陌間輝氏、および奥田繁雄校長の挨拶文を巻頭に掲げ、アルバム編として歴代校長の写真（初代・藤村与六校長から第16代・奥田繁雄校長まで）と大正14年に竣工した校舎全景を見開きで掲載するなど、写真（アルバム編）が160頁にわたっている。この後「校史概説編」が88頁あるが、これは六〇年史の要約に次の10年分を加えたものである。最後に七〇年史略年表を10頁にまとめるとともに、「牧陵」創刊号（大正14年2月発行）の表紙写真ほかの諸資料を「接写資料」として19頁でまとめている。全ページ数は280頁となった。

記念募金で5000円以上の寄付をされた方々に送付、合わせて購入希望者には送料共2500円にて頒布される。

80年史

創立80周年記念誌が記念式典と同じ平成15年11月14日に発行された。A4版横2段組で、54頁の冊子となっている。目次を紹介する。

・4ページのカラー写真、その冒頭が幻と消えた新校舎の予想図である
・横浜緑ケ丘高校　この10年
・本校80周年記念連載　新聞部
・部活動近況報告
・部活動後輩へのメッセージ
・80周年企画　これからの緑高を考える
・先輩たちに聞く
・後援三徳会　この10年を振り返って
・牧陵会の10年を振り返る
・創立80周年記念誌事業実行委員会組織

牧陵会についての記事が充実しているのが目立つ。発行部数は1500部であった。

90年史

A4版50ページで、オールカラー印刷である。表紙の絵は田中元校長によるものである。冒頭に90周年記念緑高祭の写真、ついで牧陵会主催の「緑のフェスティバル」の写真と続き、その後に各種挨拶、旧職員らによる思い出の文が続く。そのあとに、生徒会の活動、緑高生の一日、緑高生の一年、部活動実績一覧、緑高祭ポスターの変遷が紹介される。

続いて学校の紹介（学校案内、カリキュラム）、コラボ音楽祭、青春かながわ校歌祭などの写真、そして竣工なった南館（新校舎）の建設の様子が詳しく紹介され、最後に資料集というもので、一般的な周年記念誌のスタイルを打ち破った斬新な構成となっている。生徒が読みたくなる記念誌を目指したということである。

百年史

現在編集中だが、来年の記念式典に合わせて発行予定である。A5版で上下2分冊となる。

100周年への記念メッセージ

■ 100周年に寄せて

バドミントン部OB会 元会長　藤井 守一（中22期（高2期））

100周年　御目出度う御座います。
恥ずかしながら思い出を書き残します。
◉戦中の体験（中学）
校舎はグレーの濃淡でした。
戦闘帽を被り脚にはゲートルを巻いて、先輩と擦れ違うときには敬礼をしなければいけない。ズボンのポケットは強制的に縫付けさせられて、手を入れることは許されなかった。
配属将校2名が常駐し、教練をサボると校庭を何回も走らされたり、砂利を口に捻じ込まれたりする生徒も居た。
空襲警報が鳴ると即一斉に帰宅命令、時には雨樋で警報らしくうなり声を出す輩も居て、大混乱。近隣の生徒は防空隊として組織されて自宅に待機した。
一方、林田校長はカボチャの栽培を奨励され、生徒は栗原牧場から牛糞をパイスケ（竹籠）で運ばされた。手についた臭いは洗ってもなかなか落ちず、あの悪臭は今でも忘れられない。修身の時間には、自由日記を付けさせられ、毎日親孝行や良いことをした事例を書かされて、声を出して読み上げなければ成らなかった。嘘を書いて読み上げる輩もいた。
又、英語は敵国語と見做されて、英語の時間は先生による大本営発表の記事の解説を聞いて一喜一憂した。
◉戦後の体験（高校）
校舎消失の為、間門小学校に間借りしていて、二部教育もあり、割と自由な時間が多かった。
靴は穴だらけ、運動靴の配給もあったが、下駄か朴歯高下駄を履いていた。
英語力不足の補充の為に通い始めた山手英語会で、バドミントンに巡り会え、同好会を創り、全国で初めての高校での部として誕生した。創立75年に成ります。
詳細は「バド部の生い立ち日記」をご覧下さい。
机は買わされた？ 自分の机を、東福院前の狭い坂道から担ぎ上げた。
新校舎は内外共に薄いピンク一色だった。荒くれた心を静める為だったそうです。
校庭には鉄条網が張られ、進駐軍第108墓地登録小隊のかまぼこ兵舎が幾棟か並んでいた。
その兵舎の中で朝鮮戦争等で戦死した兵士の亡骸に化粧を施して、本国まで届けていた由。
日本の戦犯等もここを経由して、久保山で火葬され、飛行機で太平洋48km先にばら撒かれた由。
残念だったことは、修学旅行は米持参であった為、見送りとなり、中高とも経験なかったことです。
以上、こんな時代の環境の中で、バド部の創立は困難を極めました。

バドミントン部初代OB会会長藤井氏よりシャトルの贈呈

■ 百年後への贈り物

峯嶋 利之（高12期）

母校の創立から百年、私の卒業からも六十余年が経つ。歴史と伝統の重みを感じる。恩師の当時の年齢をはるかに超える今、懐かしい授業風景がしきりによみがえる。越次政一先生（現代文）は円熟期のクラス担任であった。「国語（明治書院）」教科書の編纂委員に名を連ねるほどの教師であったが、「エッポンさん」と愛称されていた。酔うほどに談論風発、正月には毎年お宅にまで押しかけごちそうになったツケは到底返しきれていない。浅井祐俊先生（古文）は背筋が伸びて古武士然としていた。授業は本居宣長「玉かつま」からはじまったが、むしろ今こそ聴いてみたい授業である。当時まだ珍しい自家用車通勤をしており正門前の急な坂道でしばしば乗せてもらった。車内の話は天下の日比谷高校生の息子の話が多かった。当人とは大学合格後同級生として対面する奇遇となったが、当時はまだ知る由もなかった。岡田正太郎先生は東大出の油の乗り切った俊秀で、講義姿勢で生徒に対して妥協がなかったので怖いくらいであった。今、これらの授業を再現できたらぜひ観てみたい。次の百年への贈り物として「一番聴きたい恩師の授業風景」を動画デジタルアーカイブとして残すのも一案かと思う。

■ 私の緑高生活

山下 東洋彦（高13期）

横浜緑ケ丘高校創立100周年おめでとうございます。
以下私の緑高生活。
今から65年前の昭和33年4月、期待に胸を膨らませた新入生だったが、教室は何と体育館（現在建築中の2代前）の中をベニヤ板で仕切った特設教室‼
1年次の担任は井原周済（生物）先生。我々の卒業50周年記念同期会にご出席いただき“古稀の子と 酒酌み交わす 宴かな”とのお祝いの言葉を頂戴した。我々からはちょうど88歳を迎えられた先生に“アラ古稀が 集いて祝う 米寿かな”と返句。
新校舎（建築中の新体育館のところにあった北校舎）に移った2年次の担任は島田慈周（ぼうず・英語）先生。横浜三中2期生の大先輩（東大のインド哲学科を4番で卒業と自称）。授業は名著「自修英文典」と「和文英訳の修行」を只ひたすら。残念ながら英語の力は……。
3年次の担任は同じく横浜三中10期生の下村英二（エーカ・数学）先生。生徒の出来が悪いとこめかみに血管が浮き上がり、チョークが飛ぶこともあったが、黒板に描く放物線の美しさは芸術的。卒業アルバムには人文字で「エーカ」と記した。
休講大歓迎で、晴れなら校庭でソフトボール、雨なら体育館でバドミントンが定番。今から考えると、のんびり過ごした高校生活だった。
緑高のことを在校生・卒業生は「自由で楽しい学校……」「偏差値の割に進学実績が……」等と評しているらしい。母校創立100周年。これからどんな学校に進化していくのだろう。

■ 100周年へのメッセージ

林田 政義（高15期）

私の入学は、昭和35年4月。1年生は352名でした。クラスは、AからGの7クラス、A、Bは女子、Cは男女半々、DからGは男子です。

当時は、学区制にて中区、磯子区の中学からが大半です。各中学の連帯感よろしく、私たち国附中は少人数にて、肩身の狭い思いがありました。

DからGは旧木造校舎でスタートでした。

私は、2年生から憧れのC組へ、環境は大改革でした。

私の父方祖父「林田政徳」が三中時代の校長であった事は入学までは知らず、当時の若手の先生が数名在職で、私の名前を一文字違いのため、早々に認識され、以来授業のたびに指名に預かり、緊張の連続であった事が思い出されます。

当時の学校環境は、芝生とフェンスに囲まれた米軍基地に隣り合わせ、空気も、店舗も、米国文化色が濃く、”隣はアメリカ"でした。

英字新聞、PX、米国企業、ボーリング場、カフェ等々。

1ドル360円、特にPXバイト生は時給650円、しかも週給支払と、大学時代の3年間は、文化と小遣いに恵まれ、後に外資系製薬企業での10年間の礎でもありました。

「ハマの本牧」「元町」は独特文化を成し、後に同期生「デイヴ平尾」の「長い髪の少女」はその名を全国に知らしめました。

我バンド「グリーンヒルズ プラチナバンド」は同氏の65歳の通夜の折に、有志にて結成、10年間ホーム巡りの活動をいたしました。

各施設の人生の先輩から、「緑ケ丘高校」出身ということで大変に好印象で迎えられました。同窓の先輩、後輩の皆様に　各所での活躍の結果と誇らしく、感謝です。

100年を迎えて、更に向後に、この伝統に加え、進取気鋭の心意気での活躍発展を期待致します。

■ 想い出

深海 なるみ（高15期）

創立100周年を迎えられ、おめでとうございます。

緑高を卒業して、60年。牧陵会や子供たちもお世話になった後援三徳会に関わり、現在も牧陵会のホームページに投稿のお手伝いをさせて頂いています。

修学旅行は、昭和37年の7月の下旬、3年生の夏休みに北海道へ行きました。九州、北海道のどちらかを選べました。

3年E組の私たちの担任は、東大出の新任の山田藤栄先生でした。九州生まれの山田先生は、私たちとご一緒にこの北海道旅行を大変楽しまれたように思います。

私は、文芸部に所属していました。「三高文学」という小冊子に作品を載せ、それを皆さんに買って頂いていました。

今から考えると、冷や汗ものです。小冊子を作るためには、夕方遅くまで、広告取りに行きました。懐かしい想い出です。

現在は、女子生徒の方が多くなっていると聞きましたが、私たちの頃は、350人中、女子は、全体の3分の1でした。

それぞれの折に、身近な方々にご相談し、温かく支えて頂いております。それは大変心強く、感謝しております。

緑高に愛着を感じて、心のよりどころになっていると改めて感じています。

これからも私の出来ることでお返ししていけたらと思っています。

皆様が、学びの場で、将来の活躍の基礎をしっかり培っていかれますようお祈り申し上げます。

■ 本牧の丘にたたずむ「わが母校よ」永遠なれ 高校18期「十八の会(とわのかい)」

代表幹事　橘川 和夫（高18期）

第二次世界大戦が終わり、戦後の復興の槌音が聞こえはじめた頃、我々「団塊の世代」は、この世に生を受けました。

やがて、日本経済が高度経済成長へと向かおうとした時期に、母校「神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校」の門を叩きました。

在学中は、楽しかった事も、辛かったことも一杯経験しましたが、母校で様々な学問や社会事象等を学ぶ中で、恩師や先輩との出会いや、親しき友とのかけがいのない交流等を通じて、「人としての生き方」を学んだ時期でもあり、正に様々な角度から青春を謳歌した時期でもありました。

そうした意味で、わが母校は、卒業生にとっても在校生にとっても、本牧の丘に永遠に燦然と輝く「心の故郷」であって欲しいと思うのは、私ばかりではないでしょう。

母校には、創立100周年を迎えるにあたり、これからも、従来に増して多くの有為な人材を世に送り出していただくことを願ってやみません。

■ 私の原点

白瀬　剛（高68期）

この度は緑高100周年、おめでとうございます。

私は90周年の時に在校生でした。当時西館にあった教室の窓から、現在の南館が建てられていく様子を見ていたのを覚えています。

南館が完成したときは、あまりのキレイさにとてもテンションが上がりました。

学年を重ねるごとに変わっていく学校の景色は、90年間の歴史を感じられるひと時でした。

新しい体育館も楽しみです。

緑高のダンス部がきっかけでダンスを始め、現在もダンスに関わり続けています。

当時の出会いが今でも私の原点であり、人生が変わった瞬間でした。

また、同期会の開催をきっかけに牧陵会の方々と関わる機会を頂き、卒業生同士の繋がりの強さ、歴史の深さなど、色々なお話を聞く中で本当に素敵な学校であると改めて実感しています。

もっともっと次の世代にも続いて欲しい、かけがえのない繋がりです。

今後の緑高のご発展を心よりお祈り申し上げます。

本当におめでとうございます!

■ 大学時代のアルバイトが仕事に

河野 泰治（高44期）

大学時代のアルバイトのつもりだった塾での仕事も気づけば30年。在学中は吹奏楽部で、勉強そっちのけで朝から晩まで笛ばかり吹いていた自分がここまで続けてこられたのは、緑高の友人や先輩後輩、そして何より母校の存在のおかげです。今も横浜の東進衛星予備校で高校生のお手伝いをしていますが、やっぱり「緑高」「緑高生」と聞くとついつい力が入ってしまいます。私にとって一番のパワーワードですね。

今年は50歳を口実に、同窓が集まる機会も増えました。それぞれのポジションで頑張る友人たちの話は本当に興味深く、たくさんの刺激をもらっています。あらためて母校が緑高でよかったと実感しています。愛すべき母校、100周年おめでとうございます!

■ 卒業生のご縁を繋いでいただき感謝

柴田 久美子（高45期）

創立100周年おめでとうございます。

横浜駅西口で司法書士事務所を開業して23年になります。

2001年の開業時はわずか2名でのスタートでしたが、現在は従業員も増えて司法書士も9名在籍しており東京にも支店があります。

HPをあえて作成せず、ご紹介のお客様を中心に業務を行ってまいりました。

開業以来、緑高卒業生のみならず三中卒業生の大先輩に至るまで、数々のご縁を繋いでいただき感謝しております。

長い人生の中で高校生活の3年間は短い時間ですが、大切な何かに出会えるかけがえのない特別な時間だと思います。

在校生の皆様にも大切な何かとの出会いがありますように。

司法書士法人 はまみらい
横浜市神奈川区鶴屋町3-32-14新港ビル408
TEL：045-411-3080　shibata@hamamirai.com
不動産登記（相続･売買･贈与など）法人登記（設立･増資など）
2024年4月より相続登記が義務化されます。お手続きはお早目に。

2023年 ～日日是好日～

掲載記事にご興味のある方、就職活動・お仕事・趣味など、投稿者とお話をしてみたい方は、お気軽にお問い合わせください。

greencommunity1923@gmail.com

（担当：砂川、山崎：46期）

※連絡先記載の投稿者には直接連絡可能です

■ IT関連企業から家業「そば処味奈登庵」

高橋 大介（高45期）

大学卒業後、IT関連企業での経験を積み、17年ほど前に家業の「そば処味奈登庵」を継ぐことになりました。地域の皆様に喜んでいただけるよう、日々努力しています。

店のオンボロ出前バイクでこっそり通学した日々が懐かしい思い出です。

社会に出てから業務や立場で否応にも必要に迫られ、だいぶ苦労して経営などの勉強に取り組みました。在学中からもう少し真剣に勉学に取り組んでいれば、との後悔もありますが、そんな時期に時間を共にした仲間と、今でも一緒にお酒を楽しむ時間が何よりも自分の活力となっています。

これからも緑高関係者の皆様や地域のお客様のために、もっともっと地元を盛り上げられるよう精一杯頑張ります!

皆さんにもお会いできることを楽しみにしています。

■ 信頼と絆

小山 恭明（高46期）

緑高100周年おめでとうございます!

「緑高の良さとは?」と聞かれたら、在校生・卒業生のほとんどの人が「自由な校風」と応えるでしょう。

私は「自由」とともに「伝統」への誇り、この両極な2つが共存するのが緑高生のアイデンティティの源であると思います。

ここ数年同窓の先輩・後輩と会う機会が多くなり、世代は違っても同じ校風で育んだ共通の価値観と無償の信頼を感じてきました。その絆を活かし9月に後輩と「Re Bon Earth」という会社を立ち上げました。今はまだ副業ですが横浜初の世界へ発信できるビジネスを構築し、さらに未来の後輩達へ絆をつないでいきたいと思っています。

■ バンドとは何か?　高野 英範 (高47期)

緑高祭での有志バンドが結成30年目を迎えています。その名も「ちぢれっけ」というバンドなのですが、腕前はともかくとして、結成からの期間だけでいうと、Mr.ChildrenやLUNA SEAと同じぐらいの老舗バンドになってきました。

現在は、数年ぶりのライブに向けて、渋谷のペンタゴンというスタジオで、忙しい毎日の合間を縫って練習に励んでいます。スタジオでは、夜19時から21時まで練習して、21時からはコンビニで買った酒とツマミをスタジオに持ち込み馬鹿話をするというのが定番ですがこれが楽しい。

書籍『バンド論』(青幻舎) の中で甲本ヒロトさん (ザ・クロマニヨンズ) がこんなことを言っています「こうしてふつうに生きているときは、バンドの人でも何でもない。4人で集まって、ステージの上でガッてやった瞬間、そこに「バンド」が現れるんだ。だから、いまここで、あなたの前でしゃべっているぼくは、ただのバカなんです。あれになりたいから、またやるんだ」

何故バンドをやるのか? バンドとは何か? 答えは人それぞれですが、私は (恐れ多いですが) 甲本ヒロトさんのお話しにとても近いものを感じています。ちぢれっけのメンバーがどう思ってるか聞いてみたい気はしますが、聞くことはないと思っています。まずは40周年を目指して練習! 練習! スタジオ呑み!

書籍 バンド論 (青幻舎)

ちぢれっけメンバー。左から山崎幸乃助、叶健佑、松田明、高野英範 (私)、広瀬徹。
写真に写っていませんが緑高生でない2名のメンバーもいるので合計7名。

タウンページを再開

新ホームページ公開にあたり、タウンページを再開いたしました。また、バナー広告も掲載準備をすすめました。

現在運用条件など再検討中です。

卒業生のみなさんのお店やお仕事をとうして、会員の繋がりを深める情報提供の窓口となればと考えています。

また、情報を見つけやすくするため、Topページにバナー広告を掲載する方向で検討を進めています。

■ 牧陵の縁が繋ぐ空　福岡 知伸 (高57期)

緑高100周年おめでとうございます。

在学中に80周年を迎えた私などは、寄る年波の速さに卒倒しながら、その歴史にただただ感動。

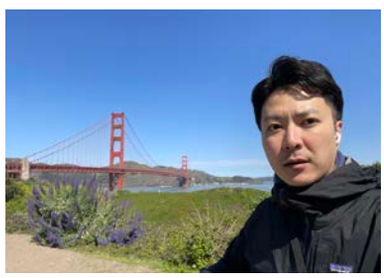
100年は、すごい。

在学中は緑高なのにまさかの帰宅部で、灰色の青春を謳歌? 大学卒業後に紆余曲折を経て航空機操縦士になり、現在は世界各地をフライトしております。

実は会社に入ってから緑高の先輩方には多々お世話になりました。

入社当時の人事担当だった副操縦士の先輩は8期上の方で、野球部にいた怖そうな先輩は訓練で共に汗を流した同期に。

緑高OBの機長とのコンビで長崎や松山へフライトして多くの学びを得ました。



皆さんが乗る飛行機も、ひょっとすると緑高OBが操縦しているかもしれません。

■ 予期せぬトラブルが好き　池田 大輝 (高63期)

私は予期せぬトラブルが好きです。

「旅行にトラブルは付き物」という言葉がある様に、緑高友人とのカンボジア旅でトラブルがありました。出発前、真剣な表情のスタッフから一言。

「NOJIMA (仮称) 様が、NOIMA (仮称) 様になっています。」

最初は爆笑、しかし対応するスタッフが増えていき、重大さに気付き笑いもなくなり…

「出発できても、乗り換えができないかも…。」

「もしかしたら、帰りの便に乗れないかも…。」

スタッフ達が友人をマレーシアかカンボジアに置いてくる話をしています。

「お金はいくらかかっても構いません。」と言ったものの、フライト間近でそういう問題でもないらしく。

最終的にどんな手を使ったのか、新たなチケットが発券され、全員で無事帰国、無事大学卒業。あの時のスタッフさん、有難うございます。

冷や汗が止まらなかったトラブルも、今では良い思い出です。

「トラブルが起きても、周りの人の助けで何とかなる」という考えが、「周りでトラブルが起きたら、助けてあげられる人になろう」に変わるきっかけになりました。皆さま、名前の入力にはご注意ください。そしてその時の緑高友人達とは今でもトラブルを楽しんでいます!

Project 2500

プロジェクト 2500　横浜緑ケ丘高校の未来のために

牧陵会会費納入の現状について（2023年10月末現在）

皆様のご協力により、対予算に対し73.7%の納入をいただきました。昨年度は会費徴収遅れなどにより、会費納入がずれ込み平常より多くの納入があったため、昨年同月を対比してみると納入人数は473名の減少、金額は946,000円の減少となっており、寄付金も昨年より514,600円減少しております。

プロジェクト2500の目標人数2500名にあと657名のところです。あと少しの皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

	収入予算		2023.10.31迄実績			あとこれだけ（3月迄に）	
	人数	金　額	人数	金　額	実施率	人数	金　額
会　費	2,500	5,000,000	1,843	3,686,000	73.7%	657	1,314,000
	(昨年10月末時点)		(2,316)	(4,632,000)			
寄付金		2,400,000		2,561,000	106.7%		
	(昨年10月末時点)			(3,075,600)			
合　計		7,400,000		6,247,000	84.4%		1,153,000
	(昨年10月末時点)			(7,707,600)			

【住所変更お届けのお願い】

本年8月の牧陵新聞配布に**約263通（配布総数約15,279通）**の宛先不明による返送の事態が発生しております。皆様からの住所変更のお届けが多くなり返送数は減少しておりますが、転勤などで住所が変わる30代世代が宛先不明になることが多いようです。新聞は皆様と結ぶ大きなツールです。住所の変更は住居表示変更も含めお知らせいただければ幸いです。

◆**住所変更届け出⇒**ホームページからのお届け又はファックスにて牧陵会事務所へ連絡の方法でお願いします（事務所の開所（火・木曜日のみ）が限られており、電話でのご連絡は難しい状態です。

2024年は同期会開催を!

恐れずに、ただし気を付けて

会員部会

◆同期会開催を計画しましょう（活動支援金の支給）

牧陵会の基本は親睦にあり、会員同士のつながりは同期会でのつながりが基本となります。会員の増加と会員情報の整備を目的として、牧陵会では同期会開催について1万円、特にメモリアル期の開催については5万円を支給して開催を支援しています。（敬老感謝同期会には2万円）

コロナ禍の3年間で開催中止を余儀なくされた期も、2024年には開催を計画されることを期待しております。

◆牧陵会の同期会開催に対する活動支援金の繰越認容について

3年間のコロナ禍において開催できなかったメモリアル同期会においても繰越して支援をできることとなっています。詳細については事務局にお問合せ下さい。

メモリアル同期会対象期（通常1万円支援を5万円支援に）

	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年
卒業後2年 成人式メモリアル	73期 R3年卒	74期 R4年卒	75期 R5年卒	76期 R6年卒	77期 R7年卒	78期 R8年卒
卒業後5年 メモリアル	70期 H30年卒	71期 H31年卒	72期 R2年卒	73期 R3年卒	74期 R4年卒	75期 R5年卒
卒業後10年 メモリアル	65期 H25年卒	66期 H26年卒	67期 H27年卒	68期 H28年卒	69期 H29年卒	70期 H30年卒
卒業後20年 メモリアル	55期 H15年卒	56期 H16年卒	57期 H17年卒	58期 H18年卒	59期 H19年卒	60期 H20年卒
卒業後30年 メモリアル	45期 H5年卒	46期 H6年卒	47期 H7年卒	48期 H8年卒	49期 H9年卒	50期 H10年卒
卒業後42年 還暦記念メモリアル	34期 S57年卒	35期 S58年卒	36期 S59年卒	37期 S60年卒	38期 S61年卒	39期 S62年卒

敬老感謝同期会対象期（通常1万円支援に敬老感謝金として1万円を加算して支援に）

	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年
古希（70歳） 卒業後52年	24期 S47年卒	25期 S48年卒	26期 S49年卒	27期 S50年卒	28期 S51年卒	29期 S52年卒
喜寿（77歳） 卒業後59年	17期 S40年卒	18期 S41年卒	19期 S42年卒	20期 S43年卒	21期 S44年卒	22期 S45年卒
米寿（88歳） 卒業後70年	6期 S29年卒	7期 S30年卒	8期 S31年卒	9期 S32年卒	10期 S33年卒	11期 S34年卒

2024年度（令和6年度）牧陵会活動について

コロナによる制限がなくなり、新体育館の完成など明るい兆しが見えてきました。牧陵会の活動に一層若い世代に活動の中心に加わってもらい、新たな活動内容や手法を取り入れていきたいと思います。今後とも学校との連携のもとに、魅力ある活動を推進していきます。今後学校内外の情勢の変化によっては変更の可能性もありますので、その際は牧陵会ホームページ等で早めにご連絡をいたしますので、ご確認をお願いいたします。

【予定される主な牧陵会活動】

2024年	6月1日(土)	牧陵会定時総会
	6月	緑高祭への参加
	7月	スポーツ応援隊（野球・サッカー）
	8月	牧陵新聞（47号）の発行
	9月23日(月・休日)	学校創立100周年記念コンサート
	10月	青春かながわ校歌祭への参加
	11月	母校創立100周年記念式典
2025年	1月	新年のつどい

【学校創立100周年記念コンサート】

令和6年9月23日（月・休日）　神奈川県立音楽堂

卒業生と在校生による母校創立100周年を祝うコンサートを開催します。幅広い年齢の音楽を愛する同窓生の演奏をお楽しみください。詳細は次号並びに牧陵会ホームページでお知らせします。

新ホームページ（HP）への投稿をお待ちしています

広報部会　宮本 太郎（高23期）

2023年母校創立100周年を記念して、5月に特別ページと9月に新HPを何とかオープンすることができました。関係者の皆様のご協力に感謝します。

新HPの作成に当たっては、広報部会のメンバーと高63期の森田さんとで検討を重ねて作成し、完成にこぎつけることができました。

従来のHPへの会員の記事投稿は、HPの講習会を受講した会員が直接記事を編集してHPに投稿していましたので、HP編集の知識を覚える必要がありました。

新HPでは、会員の投稿者は記事と写真をWordファイルで作成していただくことで、Wordファイルの表示イメージ(PDFファイル)で、HPに掲載できるようになりましたので、記事作成や編集作業も容易になりました。

また、投稿者は通常のWord編集の知識のみでHP編集の知識を覚える必要がなくなり、投稿し易くなったと思います。ご要望等があればHPの「住所変更・お問い合わせ」からご連絡下さい。

尚、従来のHPを残していますので、過去の記事はそのままご覧できます。https://bokuryoukai.com/

牧陵会事務所の場所・連絡先

関内駅北口から海側（東）に徒歩200m「銀だこ」のビルです。

TEL/FAX：０４５－６６４－９０２０

メール：bokuryoukai@gmail.com　　URL：https://bokuryoukai.com

住所：〒231-0014 横浜市中区常盤町3丁目24 サンビル6階C号

申し訳ありませんが、諸事情により事務局の業務は、火・木曜日とさせていただきます。